

●木津川希少種植生調査 秋の除草作業 22 日夕方に完了 43 人の会員が協力 国交省との契約がかなり遅れたので、除草作業に取り掛かれず、遅れが心配されました。一般業者による除草作業が一段落して、里山の会の場所がモヒカン刈りに残されている状態でした。各種の書類の提出が進んで確認しながら現場での作業を進めなければならず、随分と戸惑いがありました。特に 8440 m²という面積の除草作業なのでですからどれくらい日程がかかるのか見当が付きませんでした。しかし悩むより実践と取り組んでみると 10 日間で完了することが出来ました。参加いただいたのは延べ 43 人で集中してご協力が得られたことが良かったと思います。しかし雨が続き連続した作業日ということにはなりませんでしたが作業期間は 1 か月間で完了となりこれからの作業目安としては完璧な資料を得られました。作業服とか、安全靴、ゴーグル、安全防止ヘルメットの購入といったユニホームなどにも心配しましたが、予想よりスムーズに進みました。特に頑張っていた方は新理事の有田勉さんで格段のご奮闘をいただきました。夜勤明けの午前中から終日ハンマーモアの運転を受けもっていただき、自由自在に操作ができるようになって、除草作業の中心を担っていただきました。これで何とか一安心です。

●木津川希少種植生調査 11 月の植生調査(全 21 か所)を 9 日に終了 カワラサイコとマキエハギ、タヌキマメの生育が確認できました。先にもお知らせしましたが、この調査ではこの植生確認が最も大切なものと考えています。業務のうち除草が大きいのですが、これまで里山の会は確実に毎月の植生調査が出来ていませんでした。今回この業務の受注をきっかけにしてしっかり木津川の植生を調査したいと思っています。木津川に生育する絶滅寸前に近い貴重な植物の実態を明らかにできると思われます。ぜひ多くの皆さんのご参加を期待しています。毎月調査を実行します。

●中聖牛の設置 12 月 2 日(土)に玉石を 27 本の竹蛇籠に入れて完成へ 関心をお持ちの皆様 ぜひご参加ください。玉石入れ作業は 9 時から 完成を祝う会は 13 時から開催します。11 月 27 日に聖牛の設置場所を竹門先生、真壁木津川出張所係長、そして淀川河川事務所環境課長の稲垣さん、建設会社の田中組さんで決定を行いました。現地は台風 21 号の増水によって夏に調査した風景とは全く変わっています、繁茂していた中で通路を切り開いたのですが、跡形もなく消えていました。また、2 年前に切りひらいた通路跡も全く見当もつかない状況になっています。高水敷であった所も洗堀されています。これまでも木津川は暴れ川といわれてきましたが、21 号台風による影響は想像もつかない爪痕を残しました。高低差があり位置出しも簡単にできるものではなく、2 時間近く時間がかかりました。予定していた場所は砂浜で作業が行いやすい地形だったのですが、その砂は全くなくなり小石や大石がびっしり並ぶ石原になっていますので、用地の平面化・地ならしを行わなければならず準備工程が増えました。巨大なコンボで地ならしを行い、聖牛を運び込み据え置き、そして蛇籠の運び込み、竹蛇籠の網の目が大きすぎるので、補強材の取り付けを行う玉石の落下防止対策が追加となりました。こうした下準備を行って 29 日から玉石の投入ができるようになりました。見たところかなり大きな玉石ですが それでも私たちが扱いやすい重さのものをと希望しておいたので小さめで、こぼれやすく、きめ細かい下準備が必要でした。竹蛇籠の製作で直径 45 cm を目指して丁寧な仕事を完成させておればこの手間も省けたものです。そして計画通りの玉石の分量で間に合うはずでしたが太く仕上がっているとその分量の玉石が不足することになって、追加しなければならなくなりました。田中組様にはなにからなにまで我々の至らなかったところをご援助いただくことになっています。ご協力ありがとうございます。ご苦勞を掛けますが 2 日の竣工ができるようよろしくお願いいたします。

●12 月 3 日 ミカン農家ボランティア実施 9 時 30 分 JR 奈良線 多賀駅に集合ください 今年はかなり豊作の見込みです。間際になりましたが、今年もミカン農家へのボランティアを行います。昨年は裏作でした。今年は期待できる豊作年で、多い収穫が見込めるようです。できるだけ多くの皆さんのお越しをお願いいたします。こぞってお手伝いにお越しく下さい。元気づけにいただくミカン畑でおぜんざいの味が楽しみです。

●冬の昆虫観察会 12月23日(土) 午前10時普賢寺小学校前集合 里山農園に移動 桜谷先生から昆虫の世話係の金田さんに連絡が入り、早速事務局で確認し、23日(土)10時から里山農園で開催することにしました。エノキの落ち葉で越冬するオオムラサキの幼虫を見つけ出すのです。これまでの調査で毎年数多くの幼虫を見つけています。今年はどれほど確認できるでしょうか。近年エノキの林が少なくなっています。しかし珍しいことに30本近くのエノキが里山農園付近で群生しているのです。幼虫の越冬に最適な環境が保持されているのです。まことに貴重な場所なのです。手際よくオオムラサキの幼虫を発見できます。私たち里山の会はこうしたエノキの林を保全して、オオムラサキの自然での生育を見守ってきています。普段はなかなか体験できない素晴らしい取り組みです。カメラも忘れずにご持参ください。

●東駐車場と南駐車場の草刈大筋完了 二つの広場の面積は7500㎡ほどあります。年間4回から5回は除草作業をしながら雑草の繁茂を防いできました。肩掛け刈払い機を使って5人が3日では刈り取れません。ハンマーモア自動走行式草刈り機購入で飛躍的に能率が上がり、体力の消耗も軽減されました。それでも、約一日は運転を続けなければなりません。もちろん周辺部分は手狩り式を使わなくてはなりませんが、大筋刈り取ることが出来ました。今年の繁茂は例年以上に藤蔓がはびこりました。また、イネ科が激しく生育していたので、二段刈り作業になり、例年より2倍の手間がかかりました。それでも周辺部分は残っているのです。焼肉に使った「はさみ」や「金網」、コンロや窯に使った石やコンクリートブロック、ペットボトルや空き缶が無造作に繁茂した草むらに投げ込まれているので、遺物の除去「障害・邪魔物の取除き作業」を草刈り前に行わなくてはなりません。一度点検のための手狩りをして異物の除去後の作業となります。同時に、台風21号の増水で地面が洗われ埋もれていたブロックが出て通行が困難になっています。また水が引いた後に残される漂着物が増えているので、自動草刈り機で一網打尽ということにはいかないのが台風後の今年の状況です。植物についたニコ土が乾燥するとものすごい砂塵が舞い上がります。目を開けておれません。もちろん服にも頭にも降り注ぎます。想像を超える中での相当厳しい作業となります。

●里山農園 9号地草刈り実施 大村さんはこの秋から木津川の除草作業が入ってきたので、農園の草刈りに手が回らなくなると考えて、里山農園での作業に時間をさいています。特に草刈りです。広場ではなくて曲がりくねった畦の草刈りは斜面や細い畦道は思うように作業ははかどりません、時間がかかるものです。それでも足の都合もあって大変ですが頑張って9号地の草刈りをやり遂げてくれました。団地の朝市は月に二回の日曜日に出店し、前日や当日に収穫し手販売を続けています。事務所前の100円コーナーで並べるなど随分と苦勞を払っていただいています。ご苦勞様です。頑張ってください。

●12月8日 自然観察指導員研修会の参加者募集の案内がありました。京都平安ホテル9時30分集合です 申し込みは075-414-4705 FAX 問い合わせは 075-414-4706 京都府自然環境委保全課まで チラシは事務所に届いています。

●12月14日に週刊ニュース 700 記念号に到達 読者の皆様の声をお寄せください この週刊ニュースはできるだけ早く会員の皆様に里山の会の活動結果や予定をお知らせするために発行しています。原稿を作成することだけでなく、修正や校正を行い、印刷、メールで送信 ホームページで公表。そして印刷、手配り届けなど里山の会のかなり多忙な皆様が手分けをしながら、発信し続けてきました。多くの皆様のご苦勞と継続があつて 700号目前に到達しました。バイクで里山の会まで受け取りに来ていただく方、電車で事務所に来ていただき、帰宅後は配達していただく方、本当にご苦勞をいわず力を合わせて頑張ってきました。みんなで力を合わせて発行が続いているのです。とうとう700号到達となります。14年間を経過しました。本当にすごいことだと思います。ご覧になっていただいている皆様何か一言ご感想をお届けください。あなたの一言が支えていただいた皆様への大きな激励となるものです。よろしくお願いします。

●発行にあたっては、何かと不十分なところも多々あると思います。そこは頑張っている努力に免じていただき、是非ともあなたの声をお寄せください。そしてさらに800号1000号へと続けられたらと思っています。里山の会は会員皆様が主人公なのですからよろしくお願いいたします。